



公益社団法人  
福島相双復興推進機構  
(福島相双復興官民合同チーム)

資料7

# 福島相双復興官民合同チームの取組状況について

2 0 2 4 年 3 月

公益社団法人  
福島相双復興推進機構  
(福島相双復興官民合同チーム)

# 福島相双復興官民合同チームの体制

## <福島相双復興官民合同チーム>

チーム長(相双機構理事長)	北村 清士 (株式会社東邦銀行 顧問)
副チーム長	片岡 宏一郎 (経済産業省福島復興推進グループ長)
構成員数	270名 (うち、常駐員：210名) 発足当初は140名

### 公益社団法人 福島相双復興推進機構

- ・経産省 ・農水省 ・福島県
- ・民間企業等

総務調整グループ

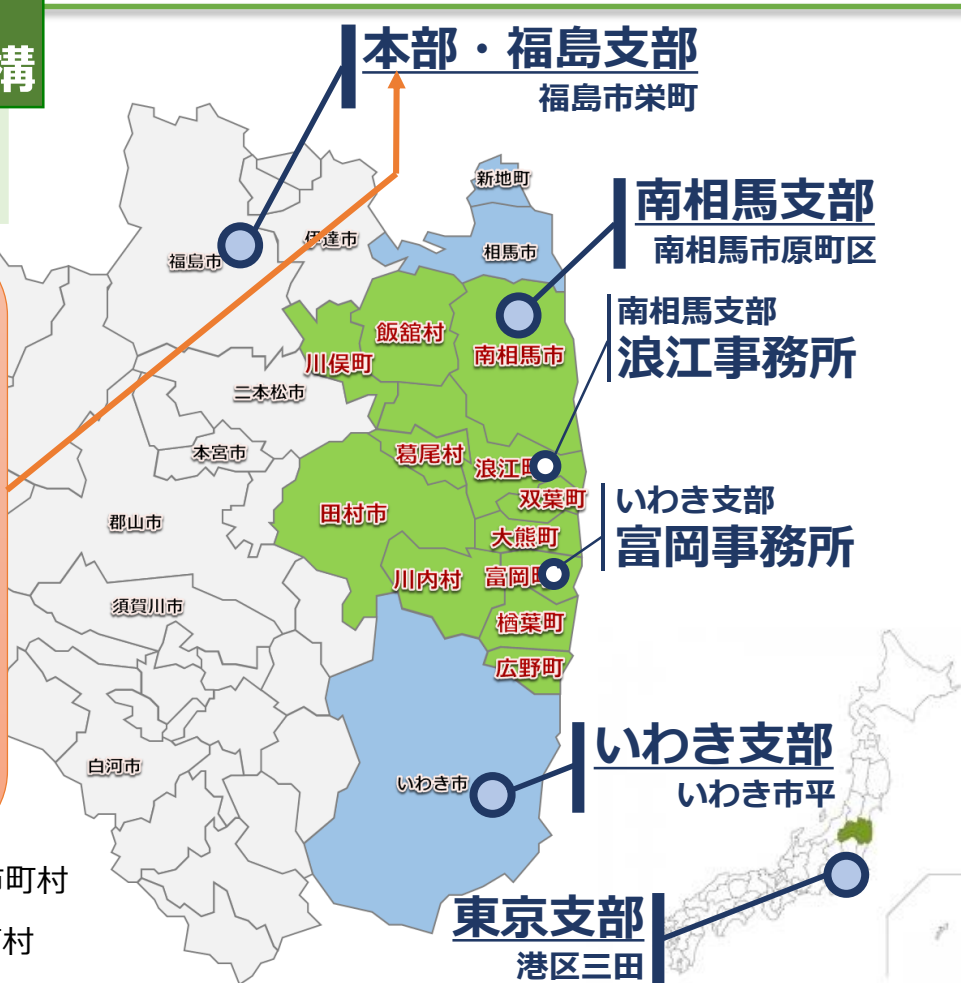
事業者支援グループ

水産販路等支援PT

営農再開グループ

産業創出グループ

広域まちづくりグループ



福島県  
(農林水産部)

内閣府原子力  
災害対策本部  
(農林水産省)

(独)中小企業  
基盤整備機構

2024年1月1日現在

# 官民合同チームの歩み及び主な業務

- 2015年6月の閣議決定に基づき新たな支援主体（官民が一体となったチーム）として創設。
- 被災事業者の事業再開支援、営農再開の支援、水産業関係の支援等に加え自治体や商工会等と連携したまちづくり支援や交流人口拡大等に資する取組を実施。
- これまで、累計で約5,800者の事業者・約2,700者の農業者を個別訪問。

(2024年1月1日時点)

2015年

2016年

2017年

2018年

2021年

官民合同  
チーム創設  
(8月)

公益社団  
法人化

福島・南相馬・いわき・  
東京拠点を支部化

福島特措法に位置付け

富岡事務所  
浪江事務所  
の設置

北村チーム長  
(相双機構理事長) 就任

水産販路等支援  
プロジェクトチームの設置

第2期復興・創生期間スタート

● 事業・なりわいの再生支援

● 営農再開への支援

● 水産仲買・加工業等  
への支援

● 生活・事業環境整備のためのまちづくり支援

● 交流人口拡大・産業発展に係る支援

個人  
支援

面的  
支援

# 2023年度 取組強化項目

## 事業者支援 (商工)

- ◆ 自立経営維持の上で重要な**経営力強化**につながる**支援体制・品質の向上策等**の検討
- ◆ 取組当初に見えていなかった**中4町特有の課題**の分析および**対応策の具体化**
- ◆ 人口増加や商圈拡大を見据えた**新規創業者等**に対する**支援方法・方策の明確化**

## 事業者支援 (水産販路等)

- ◆ **常磐ものの認知度向上と販促強化**（常磐大漁市）
- ◆ **支援ニーズの更なる掘り起こし**
- ◆ 販路開拓、新商品開発等を通じた**経営力強化支援**

## 営農再開支援

- ◆ **外部法人誘致**および**地権者とのマッチング支援**
- ◆ **農地集積・集約の支援**（関係機関との連携等）

## 産業創出支援

- ◆ 国が推進する「**デジタルライフライン全国総合整備計画**」との**連携**を見据えた、福島県における**地域課題解決**に資する**ドローン航路実現可能性**の検討
- ◆ 中核となる企業や組織を起点とした**サプライチェーン強化**や**塊の形成**による**産業集積**に資する**取組の具体化**

## 広域まちづくり支援

- ◆ 中4町を重点とした**まちづくり計画**への**具体策提案と実行に向けた支援**（富岡町、大熊町事例ほか）
- ◆ 学生、兼業副業人材等、**さまざまな層をターゲット**とした**関係人口拡大**に向けた**取組**

## 戦略的情報発信

- ◆ **事業者・農業者の想いを幅広く発信**をするための**具体策の立案**および**実行**

# 官民合同チーム 五箇条

第二期復興・創生期間において、現場主義を徹底して復興への取り組みを進めるとともに、相双地域に新しい価値を創出することを目指して、官民合同チームの行動規範を次のとおり進化させる。

(2021年6月1日)

## 一、労を惜しまず、とことん取り組む

事業・なりわい・生活の再建と自立、地域の発展のために、自分事として、労を惜しまず、とことん取り組む。

## 一、謙虚にお話を伺い、真の思いを理解する

被災された方々の御苦労を胸に刻み、謙虚にお話を伺い、真の思いを理解する。

## 一、対話を深め、広い視野で提案する

対話を深め、全体を俯瞰する広い視野を持ち、復興の状況に応じた最適な施策を提案する。

## 一、チームワークを高め、関係機関と協働する

チームワークを高め、関係機関と協働することで、多様なネットワークと専門性を総動員し、成果を追求する。

## 一、「希望の地」を目指して、新たな取り組みに挑戦する

高い志を持って、「希望の地」を目指し、失敗をおそれず、新たな取り組みに果敢に挑戦する。

“相双の復興なくして福島の復興なし。福島の復興なくして日本の再生なし。  
復興のその先にある未来へ”

# 取組の具体例



# 事業者支援

## 被災地域のなりわい再生に向けた支援

＜活動実績＞ 事業者訪問：累計 5,837者  
 帰還再開：22者（累計 1,619者）  
 販路開拓：24件（累計 1,258件）  
 人材確保：753名（累計 4,418件）

【人口や商圈がこれから回復していく地域への重点支援】

◆ 中4町で再開・進出意向のある全71者へ個別訪問し、事業者が抱える課題の抽出や分析を行い、状況に応じた実効性ある支援を実施

### ＜取組例：人材確保支援＞

地域の人材不足、進出企業と地元企業の人材の取り合いも発生

#### 人材採用強化施策

県外からの採用や通勤交通費支給改善の提案、求職者向けに会社の魅力を伝える採用動画作成、移住を促進する移住支援マガジンの発信強化など。

### ＜取組例：帰還再開支援＞

大堀相馬焼の伝統を守るため、いわき市に移転再開されている陶吉郎窯の陶芸家近藤氏の浪江町帰還に向けた支援を実施。



新工房の上棟式（9月・浪江町）



新工房のお披露目（3月・浪江町）

# 営農再開支援

## 外部からの新規参入に向けた支援

＜活動実績＞ 農業者訪問：累計 2,675者  
 販路開拓支援：33件（累計 280件）

### 【外部からの新規参入支援】

◆ 営農再開面積拡大に向け、外部からの法人誘致推進を継続。

#### ＜誘致状況＞

茨城県農業法人へのアプローチ	50社
説明会実施	12社
現地視察会	10社



現地視察の様子（浪江町）

◆ 担い手の明確化と農地の集積・集約を進めるため、県が推進する「地域計画」（地域における目指すべき農地利用の姿を示した将来地図）の策定支援とともに、担い手のいない地域への誘致法人の参入を支援。

#### ＜営農再開に向けた主な活動＞

農業者への意向確認	397者
農業者との座談会開催、会議資料作成・説明	61回
外部法人と地権者のマッチング	2法人 23件

## 付加価値の高い商品開発の支援

### 【地元で栽培したえごまの販路拡大支援】

◆ 浪江町移住者が栽培したえごまの販路拡大に向け、県内チョコレート菓子業者とマッチングし、今までにないショコラサンド開発とそのブランドロゴ作成を支援。



えごまを使った洋菓子「えごまる」

※ ＜活動実績＞ は2023年4月～2024年2月までの実績。累計は機構設立(2015年)以降の実績。

# 水産仲買・加工業等への支援

## 常磐ものの認知度向上と理解促進に向けた支援

＜活動実績＞ 事業者訪問 : 79者 (対象は126者)  
 販路開拓支援 : 95件 (累計 145件)

【県漁連・相双漁協とタイアップした漁業を応援する取組】

- ◆ 処理水放出に鑑み、首都圏を中心とした販売会を集中開催  
 (累計105日間、約1,600万円の売上)
- ◆ ご来場者からは「とても美味しい」「継続的に支援していきたい」など多くの感想を頂いた



黒岩 神奈川県知事

(10月・横浜そごう)



福田 栃木県知事 (右から3人目)  
 古口 茂木町長 (右から4人目)

(2月・道の駅もてぎ)

【「福とら」を新たな地元食材のブランドに】

- ◆ 認知度向上と供給体制構築への支援を実施
- ◆ 相双漁協主催の「相馬原釜魚市場まつり」の開催に当たり 企画構成から当日の会場運営までを支援。
- ◆ 同漁協からは「こんなに多くの方が来てくれて、我々のことを応援して頂いている。もっと水揚げ量を増やしていきたい」と感激された。



無料で振る舞われた「福とら」唐揚げ (11月・相馬市)



		開催場所	
10月	関東	かながわ屋 (アンテナショップ)	
	関東	松坂屋上野店(百貨店)	
	関東	ラゾーナ川崎(SC)	
11月	関東	大宮駅 (駅ナカ)	
	関東	シモキタマルシェ (商店街)	
12月	関西	ナショナル (スーパー)	
	関西	南あわじ市 (直売所)	
1月	関西	魚くみ (百貨店)	
2月	関東	もてぎ (道の駅)	
	関東	那須与一 (道の駅)	
	関東	上野駅 (駅ナカ)	

■ : 首長が来場

- ◆ 福島県ふぐ処理者認定試験に向け、  
 専門家による実技講習を支援。  
 (10,11月に2回ずつ、計4回)

支援者11名中、7名が合格！



解体処理の実技講習

※ <活動実績> は2023年4月～2024年2月までの実績。累計は水産仲買・加工業等への支援開始 (2021年) 以降の実績。



# 広域まちづくり支援

## 提案型の総合的まちづくり支援

### 【富岡町に対するまちづくり支援】

- ◆ 先行解除した富岡地区の復興の流れを夜の森地区に波及させていくことが町全体の復興において必要不可欠との認識の下、両地区の今後のまちづくりと両地区間の連携に係るプランを住民主体のワークショップで3年がかりでとりまとめていく取組を実施中



グループ討議



プラン発表

### <ワークショップ開催実績>

- ◆ 4回（富岡地区2回、夜の森地区2回）（6月～11月）
- ◆ 2024年1月には、両地区合同のワークショップを開催



一体的なまちづくりのイメージ

- ◆ 他のまちでも提案型まちづくり支援を実施中

## 関係人口拡大に向けた取組

### 【大学生観光まちづくりコンテスト2023】

- ◆ 全国の大学生が自らの知見や専門性を活かし、地域の観光まちづくりに資する「観光まちづくりプラン」を競う「大学生観光まちづくりコンテスト 福島復興ステージ2023」を9月に開催（全国49大学、総勢561名が参加）
- ◆ 優秀チームは自治体でプレゼン  
優勝プラン:『葛尾村の超軟水（かつらうおーたー）の商品化』



ラベルデザインの提案

### 【首都圏ワークショップ開催による実証事業】（協業先：[ソトコ](#)）

- ◆ 首都圏の企業に雇用されながら地域との関わりを持ちたいと考えている層を対象とし、12市町村との関わり方を考える連続講座を開催し、関係人口の拡大を図る取組（将来的には相双地域内での移住・起業等を期待）

### 【兼業副業を通じた起業家創出モデル実証事業】（協業先：[ETIC](#)）

- ◆ 首都圏の起業意欲を有する人材に対し、12市町村の事業者での兼業・副業を通じた新規事業の立上げ経験、12市町村の体験・顧客ニーズ・人脈等の獲得を支援。並行してビジネスプラン策定に向けた指導等の起業支援を実施。12市町村での起業を促進する取組。

### 【第1回関係人口サミット】

- ◆ まちづくりに取り組む自治体関係者などを対象に、関係人口の拡大について考えるシンポジウム「第1回関係人口サミット」を開催（5月・大熊町）



パネルディスカッション

# 産業創出支援

## ドローンによる地域課題解決に向けた支援

### 【「福島・ドローン」を全国に発信】

- ◆ ジャパンドローン（6月・幕張メッセ）に出展し、福島ドローン事業者のビジネス機会創出を支援、福島ロボットテストフィールドの実証環境の良さをPR

（福島県庁・イームズロボティクス(株)と連携して対応）



出展ブース



ドローンガイドブック

### 【ドローン航路の実現可能性の検討】

- ◆ イノベ機構と連携し、国の進める「デジタルライフライン全国総合整備計画」(10年計画)を推進力として、福島ロボットテストフィールド等の既存アセットを活用した福島における海岸線上空のドローン航路実装に向けた実現可能性を検討。

#### <想定ユースケース>

- ◆ 密漁監視、魚群探知（沿岸）
- ◆ 生活物資、医薬品配送 など



海岸線上空のドローン航路  
(イメージ)

# 情報発信等の取組

## メディアやSNSを通じて地域の魅力を情報発信

### 【ピアノ復活プロジェクト】

- ◆ 被災地のピアノを再生し、町民に勇気や元気を与えようと、各関係者様のご協力により、帰還困難区域だった地域に残されていたピアノを再生させ、地域の「ヒト・コト・モノ」の魅力を発信し、まちの魅力向上・活性化につなげる取組



浪江町津島（標葉祭り）で演奏  
ピアニスト：西村由紀江氏  
(10月・浪江町、11月・双葉町)

### 【食のプロジェクト】

- ◆ 相双地域の食材・食の魅力の情報発信をはじめ、風評被害の払拭や食材の高付加価値化・地元裨益、交流推進・関係人口の増加など、複数の目標を設定・達成することを目指し、一石で何鳥も狙う取組
- ◆ 鈴木酒造店のお酒と柴栄水産の常磐もの、川俣シャモ等と日本料理店（僖成）をお繋ぎし、お酒と食の双方の魅力を更に高め、福島相双地域の食材の良さを効果的にPR

福島の酒と食材を都内でPR  
(7月・都内日本料理店)



常磐ヒラメ



川俣シャモ



鈴木酒造店：鈴木社長